

【2018 年度総会資料 12】

『フードシステム研究』冊子体刊行廃止に関する提案

1. 背景

日本フードシステム学会の近年の財務状況や会員動向、また教育支援事業など新たな学会活動を展開するなか、中長期的に財務状況がひっ迫する可能性が常任理事会で議論されてきました。こうした背景のもとで、経費節減の方法として、学会誌に関して冊子体での刊行をとりやめ、電子版のみの発行に移行することが常任理事会で提案されました。本件について、他学会の動向や出版社からの試算をもとに、常任理事会と編集委員会で検討してまいりました。以下、その結果を提案いたします。

2. 提案：冊子体の廃止とこれに伴う対応

○今回の大会総会において、『フードシステム研究』の冊子体刊行の廃止の可否について、会員からの意見を把握したいと存じます。

○そのうえで、冊子体刊行の廃止の可否に関しまして、次期の理事会において決定することについてご承認を頂きたいと存じます。

○冊子体刊行の廃止を決定した場合には、そのタイミング、所要の手続き等について、次期理事会が決定することをご承認頂きたい。

○その際、冊子体廃止後の諸対応として、下記の点を考慮することを、次期理事会に申し送りしたいと存じます。

- ・希望者には事前予約制（有料・受益者負担）により冊子体を作成・郵送する方向で検討する。
- ・関係する諸規定の改訂を行う。
- ・ニューズレターなど会員と学会との定期連絡媒体のあり方について今後検討する。
- ・経費節減分の使途、会員への還元方策などについて検討する。
- ・その他、冊子体廃止に伴う影響や効果について継続的に観察し必要な対応を行う。

（参考）経費節減見通しとその使途案

○経費節減の見通し（筑波書房による過去の経費データに依拠）

- ① 組版のみへの変更：年間 100 万程度の節減
- ② 郵送費分の節約：年間 30 万程度の節減

もしも定期購読分の契約を解除する場合は、10 万円程度収入の減少となる。

○経費節減分の使途については、次期の常任理事会で検討する。

例：過去にさかのぼって報告論文を J-Stage に分割アップロードする経費に充てる。

（2009～17 年の 225 報の分割アップロード費用は 113 万円 [@5 千円]）

学生会員の論文投稿審査料の免除

英文要旨のネイティブチェックを学会で行い、その費用を学会で負担する

研究助成や出版助成などの企画を実施する

（以上）